

Tokyo Philharmonic Orchestra

Season 2024 subscription series

Booklet



2024シーズン定期演奏会

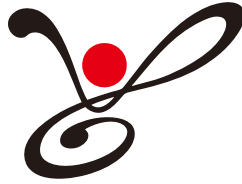
2024

3

東京フィルハーモニー交響楽団

chie / d.

English pages inside



©上野隆文

本日はご来場いただき、まことにありがとうございます
歴史を紡ぎ未来へと奏でるオーケストラの調べを
心ゆくまでお楽しみください

東京フィルハーモニー交響楽団

オフィシャル・スポンサー

SONY

Rakuten

マルハチ

LOTTE

JP BANK ゆうちょ銀行

公益財団法人 東京フィルハーモニー交響楽団は上記の企業から特別なご支援をいただいております。

第998回オーチャード定期演奏会

3月10日(日) 15:00開演 Bunkamura オーチャードホール

第161回東京オペラシティ定期シリーズ

3月13日(水) 19:00開演 東京オペラシティ コンサートホール

第999回サントリー定期シリーズ

3月15日(金) 19:00開演 サントリーホール

3/10

3/13

3/15

指揮：アンドレア・バッティストーニ

ソプラノ：ヴィットリアーナ・デ・アミーチス* カウンターテナー：彌勒忠史*

バリトン：ミケーレ・パッティ*

合唱：新国立劇場合唱団(合唱指揮：富平恭平)*

児童合唱：世田谷ジュニア合唱団(児童合唱指揮：掛江みどり)*

コンサートマスター：依田真宣

レスピーギ：『リュートのための古風な舞曲とアリア』第2組曲(約20分)

I. 愛らしいウラウ II. 田園舞曲 III. パリの鐘とアリア IV. ベルガマスカ

— 休憩(約15分) —

オルフ：世俗カンタータ『カルミナ・ブラーナ』* (約65分)

運命 それは世界の女帝

1. おお 運命よ
2. 運命のもたらした傷を 私は嘆く

I. 春

3. 春が素敵な顔を
4. 全てを太陽が暖める
5. さあ見てごらん

緑の野原で

6. 踊り
7. 気高い木々に
8. 小間物屋さん ちょうだいな
9. 輪舞
10. 世界中が俺のもんでも

II. 酒場で

11. 胸の中は滾(たぎ)っている
12. 昔は湖にいたものさ
13. 俺は修道院長だ
14. 俺らが酒場にいる時にゃ

III. 恋の庭

15. キュービッドは飛び回る
16. 昼も夜も すべてのものが
17. 少女が立っていた
18. 俺の心は
19. 兄ちゃんと姉ちゃんが
20. おいで おいで さあおいで
21. 秤にかけてみよう
22. 歎(よろこ)びの時が来た
23. 愛しい貴方

ブランツィフロール(白い花)とヘレナ(絶世の美女)

24. ようこそ 最も美しい女(ひと)

運命 それは世界の女帝

25. おお 運命よ

主催：公益財団法人 東京フィルハーモニー交響楽団

助成：文化庁文化芸術振興費補助金(舞台芸術創造活動活性化事業) 独立行政法人日本芸術文化振興会(3/15)

協力：Bunkamura(3/10)



♪本公演は全席指定です。指定のお席にご着席ください。演奏開始間際の入場の際にはスタッフの案内で入場券記載とは異なる席への着席をお願いすることがございます。

♪演奏中のご入場は、固くお断りいたします。楽章間のご入場は楽曲の進行によりスタッフのご案内いたします。入場いただけない場合もございますのでご了承ください。

♪曲間・楽章間での退場につきましては、体調に不安がある場合など、無理せずご判断ください。その際、周りのお客様の鑑賞の妨げとならぬよう、ご配慮いただければ幸いです。

♪演奏中に、時計やスマートフォンのアラーム音等が鳴らないよう、いま一度ご確認ください。

♪演奏は最後の余韻まで余さずお楽しみください。早すぎる拍手や声援は他のお客様の鑑賞の妨げとなる場合がございますので、ご配慮くださいますようお願いいたします。

出演者プロフィール



©上野隆文

指揮

アンドレア・バッティストーニ

Andrea Battistoni, conductor

東京フィルハーモニー交響楽団 首席指揮者

1987年ヴェローナ生まれ。国際的に頭角を現している同世代の最も重要な指揮者の一人と評されている。2013年ジェノヴァ・カルロ・フェリーチェ歌劇場の首席客演指揮者、2016年10月東京フィル首席指揮者に就任。

『ナブッコ』『リゴレット』『蝶々夫人』（二期会）、グランドオペラ共同制作『アイダ』のほか、ローマ三部作、『展覧会の絵』『春の祭典』等数多くの管弦楽プログラムで東京フィルを指揮。東京フィルとのコンサート形式オペラ『トゥーランドット』（2015年）、『イリス（あやめ）』（2016年）、『メフィストフェレ』（2018年）で批評家、聴衆の双方から音楽界を牽引するスターとしての評価を得た。同コンビで日本コロムビア株式会社よりCDのリリースを継続している。

スカラ座、フェニーチェ劇場、ベルリン・ドイツ・オペラ、スウェーデン王立歌劇場、アレナ・ディ・ヴェローナ、バイエルン国立歌劇場、マリンスキー劇場、サンタ・チェチーリア国立アカデミー管、イスラエル・フィル等世界の主要歌劇場・オーケストラと共演を重ねている。2017年には初の著書『マエストロ・バッティストーニのぼくたちのクラシック音楽』（音楽之友社）を刊行。

2021年、東京フィルとの録音『ドヴォルザーク新世界&伊福部作品』欧米盤が欧州の権威ある賞の一つ「OPUS KLASSIK 2021」交響曲部門（20-21世紀）を受賞した。

Website <http://www.andreabattistoni.it/>Facebook <https://www.facebook.com/Andrea-Battistoni-159320417463885/>

3/10

3/13

3/15



ソプラノ ヴィットリアーナ・デ・アミーチス

Vittoriana De Amicis, soprano

イタリアのラクイラ生まれ。第4回レナータ・テバルディ国際コンクール(サンマリノ)等複数の国際コンクールを制し、2018年～2020年までヴァレンシアのソフィア王妃芸術宮殿にあるブラシド・ドミンゴ研修センターで研鑽を積んだ。これまでのおもな活動として、ウィーンとヴァレンシアでの『フィガロの結婚』、テラモでの『リゴレット』、天津とハルビンでの『仮面舞踏会』『セビリヤの理髮師』『カルメン』、ヘレス・デ・ラ・フロンテラ、コルドバ(アルゼンチン)、アリーナ・ディ・ヴェローナでの『魔笛]夜の女王。また、ヴァレンシアでのマルティン・イ・ソレル『騙された先生』、サンカルロ劇場『トロヴァトーレ』、バルレモ・マッシモ劇場『デイドーとエネアス』、バルマでの『アドリアーナ・ルクヴルール』などもある。コンサートでは、ルチアーノ・パヴァロッティの没後10年を記念したアリーナ・ディ・ヴェローナでのコンサートに出演している。



カウンターテナー 彌勒忠史

Tadashi Miroku, countertenor

平成24年度(第63回)芸術選奨文部科学大臣新人賞(音楽部門)をカウンターテナーとして史上初めて受賞。千葉大学卒業、同大学院修了。東京藝術大学卒業。二期会・日生劇場『メデア』、佐渡裕指揮『夏の夜の夢』、市川海老蔵特別公演『源氏物語』等の舞台や、オーケストラ・コンサート、さらには「題名のない音楽会」「関ジャム完全燃SHOW」等TV番組にも多数出演する等幅広く活躍。CD「No early music, No life?」(OMF/朝日新聞推薦盤)や著作も「イタリア貴族養成講座」(集英社)等数多い。NHK「テレビでイタリア語」「ぶらあぼ」「教育音楽」等に記事を連載。現在、国立音楽大学客員教授、日本大学芸術学部講師。在日本フェッラーラルネサンス文化大使。二期会会員。



バリトン ミケーレ・パッティ

Michele Patti, baritone

イタリア・ジェノバ生まれ。複数の国際コンクールに優勝し、ボローニャのテアトロ・コムナーレ音楽院でイタリアオペラの奨学生に選ばれた。最近の活動として、プッセートのヴェルディ劇場、ボローニャ・テアトロ・コムナーレ、バルマ・レージョ劇場の共催によるヴェルディ・フェスティバルのオープニング『愛の妙薬』『ドン・ジョヴァンニ』『椿姫』、バルマのヴェルディ音楽祭での『一日だけの王様』、ジェノヴァ・カルロ・フェリーチェ劇場での『ドン・バスカワーレ』『ラ・ボエーム』『メリー・ウイドウ』『道化師』、コモ歌劇場『ウイリアム・テル』タイトルロール、ベトルツェッリ劇場(パリー歌劇場)『愛の妙薬』、マッシモ・ベッリーニ劇場(カターニア)『椿姫』、ナポリ・サン・カルロ劇場とカラカラ劇場の『カルメン』、ヴェローナ・フィラルモニコ劇場『魔笛』など。

合唱 **新国立劇場合唱団**(合唱指揮: 富平恭平)
New National Theatre Chorus (Kyohei Tomihira, chorusmaster)



©上野隆文

新国立劇場は、オペラ、バレエ、ダンス、演劇という現代舞台芸術のためのわが国唯一の国立劇場として、1997年10月に開場した。新国立劇場合唱団も年間を通じて行われる数多くのオペラ公演の核を担う合唱団として活動を開始。個々のメンバーは高水準の歌唱力と演技力を有しており、合唱団としての優れたアンサンブル能力と豊かな声量は、国内外の共演者およびメディアからも高い評価を得ている。

児童合唱 **世田谷ジュニア合唱団**(児童合唱指揮: 掛江みどり)
Setagaya Junior Chorus (Midori Kakee, children's chorusmaster)



1992年7月に掛江みどりによって世田谷区社会教育団体として創立され、2022年に30周年を迎えた。日本歌曲、国内外の合唱作品、ミサ曲など幅広いレパートリーを持ち、定期演奏会開催、オペラやオーケストラ作品への出演、学校教材等、CD収録も多数。また、世田谷区公式行事他、地域活動にも貢献している。パティストーニ氏指揮東京フィルハーモニー交響楽団とは『オテロ』(2017)『メフィストフェレ』(2018)(いずれも演奏会形式)で共演。近年では新国立劇場『スーパーエンジェル』『トスカ』、東京芸術劇場『夕鶴』『道化師』、田尾下哲演出『マタイ受難曲』にて好評を博す。新国立劇場2023/2024シーズン開幕公演『子どもと魔法』での高評価は記憶に新しい。

楽曲紹介

解説=小宮正安

3/10

3/13

3/15

オットリーノ・レスピーギ(1879-1936)と**カール・オルフ**(1895-1982)。イタリアとドイツという出身地こそ異なるが、2人の間には、幾つもの共通点がある。

ともに19世紀後半に生まれ、20世紀前半に彼らの代名詞ともなる代表作(まさにそれらこそ、本日演奏される2曲である)を発表した。また、彼らの同時代には忘却の彼方に葬られていた古い音楽を研究し、それを自らの作品に反映させた。さらに、政治的な嵐が吹き荒れるヨーロッパに生き、そのことが彼らの人生に少なからず暗い影を落とした。

そんなレスピーギとオルフの傑作について、より詳しく見てゆこう。

レスピーギ

『リュートのための古風な舞曲とアリア』第2組曲

別段、リュート(16世紀から17世紀にヨーロッパで流行した撥弦楽器)が用いられているわけではない。にもかかわらず、「リュートのための」という断り書きが記されていることを考えると、何とも奇妙な題名だ。

というのもレスピーギは、彼の同世代の作曲家に見られるように、曲がり角に差し掛かかっていた同時代の西洋芸術音楽に風穴をあけようとしたからだ。結果彼は、クラウディオ・モンテヴェルディ(1567-1643)をはじめとする古の音楽家に再注目し、その音楽の精神や技法を取り入れてゆく。そうした中で彼が目を向けたのが、16世紀から17世紀にかけて書かれたリュートやギター作品を、イタリアの音楽学者オスカル・キレゾッティ(1848-1916)が編纂・出版した楽譜。これを基に、オーケストラのために自由に編曲した組曲が、『リュートのための古風な舞曲とアリア』である。

組曲は1917年以降、断続的に3度にわたって作られ、1923年にまとめられた2番目のものが第2組曲となる。以下の4つの曲から構成されており、曲ごとにオーケストラの編成が変わる。つまり曲想に応じて様々な音色の変化を味わえるのが特徴であり、オーケストレーションの業に長けていたレスピーギの腕前

が光る。

1. **愛らしいラウラ**：ガリアルダ、サルタレッコ、カナリオという異なる3つの舞曲から成り、それぞれ2/4拍子、6/4拍子、3/8拍子となっている。3曲ともにレスピーギの時代には、ファブリツィオ・カロゾ（1526/35-1605/20）による同名の連作舞曲と考えられていた（なお、「ラウラ」とは、女性のファーストネームである）。

2. **田園舞曲**：ジャン＝バティスト・ブサール（1567頃-1625頃）の作品による。

3. **パリの鐘とアリア**：アリアの部分は、マラン・メルセンヌ（1588-1648）の作と言われる。

4. **ベルガマスカ**：ベルナルド・ジャンンチェッリ（?-1650以前）の作品による。「ベルガマスカ」も舞曲の一形態で、イタリアのベルガモの民族舞踊が基となっている。

一聴すればわかるように、この組曲に溢れているのは単なる「学究的」な姿勢ではない。むしろ奥底には、セピア色に染まった古の世界への回顧の情が脈打っている。またそうした事情もあって、レスピーギは「イタリア精神の復活」をスローガンに掲げた時の権力者ベニート・ムッソリーニ（1883-1945）のお気に入り作曲家と化し、死後はファシズムの協力者として批判の矢面に立たされることとなってしまった……。

【作曲年代】1923年 【初演】1924年2月17日、ローマにて、ベルナルディーノ・モリナーリ指揮サンタ・チェチーリア王立アカデミー管弦楽団による

【楽器編成】ピッコロ（フルート持ち替え）、フルート2、オーボエ2、イングリッシュ・ホルン、クラリネット2、ファゴット2、ホルン3、トランペット2、トロンボーン3、ティンパニ、チェレスタ、ハープ、チェンバロ（4手）、弦楽5部

オルフ

世俗カンタータ『カルミナ・ブラーナ』

1803年、南ドイツのボイエレンという集落にある修道院（ベネディクトボイエレン修道院）で、中世の写本が発見される。そこには、歌や劇のために作られた300以上もの詞が記されており、世の中に対する怒りや嘆き、恋愛や性愛、乱痴気騒ぎの宴や放浪生活の様子などが、ラテン語をはじめ古いドイツ語やフランス語で書かれていた。

つまり謹厳さを旨とする修道院に保存されていた文書とは思えないほど、中世の世俗の人々の喜怒哀楽を赤裸々に描いた内容だった（なおこれらの詞の多くは作者不詳だが、おそらくは主に遍歴職人によって書かれたようだ）。それゆえ、この発見は大きな話題を呼び、やがて1847年にはヨハン・アンドレアス・シュメラー（1785-1852）という文学研究者の編纂によって、写本の全てを記した全集が出版される。

この全集に触発された作曲家が、オルフである。彼もレスピーギ同様、西洋芸術音楽の変革を考えており、例えば、モンテヴェルディのオペラ譜の校訂出版をおこない、彼の作品から多くを学びとった。またイーゴリ・ストラヴィンスキー（1882-1971）をはじめ、同時代の先端をゆく音楽家の動向にもアンテナを張っていた。さらに、体操をはじめ、グラフィックデザインや著述等、多彩な分野で才能を発揮していたドロテー・ギンター（1896-1975）と組んで、1924年にギンター学校を創設。いわゆる「リトミック」教育の第一人者としても活躍中だった。

こうした経験が、1934年から37年にかけて作られた世俗カンタータ『カルミナ・ブラーナ』に結実する。作曲にあたり、オルフは件の全集の中から23作品を選びとり、それらを自在に並べ直した。結果、「運命に対する人間の嘆き」を全体の大きな枠組みに据え、春の到来の中で恋の予感が溢れる**第1部（『春～緑の野原で』）**、社会のはみ出し者となってやけ酒をあおる男たちを描いた**第2部（『酒場で』）**、若い男女が出会い結ばれる**第3部（『恋の庭』）**という構成となった。

さらに元々この作品は、古のヨーロッパにおける音楽の上演形態からヒントを得て、舞踏を伴う演出付きの舞台上で上演されるものとして作られた。またそのこともあって、頻出する変拍子を効果的に採り入れた、きわめてリズムカルな楽曲が全体を貫いている。大量の打楽器はもちろん、オーケストラのあらゆる楽器にも、リズムまたリズムを刻む役割が与えられているのがその証拠だ。

3/10

3/13

3/15

また、ルネッサンスや中世、古代ギリシアにまで遡るような独特の旋法を用いつつ、それらを基に俗謡のような野趣溢れる楽想が頻出するのも特徴だ。独唱が描く登場人物の心情や状況を説明するのみならず、時にはオーケストラとともに主演となって絶大な効果を発揮する合唱（混声合唱と少年合唱）の活躍も、モンテヴェルディのオペラや、さらにそのアイディアの源泉となった古代ギリシア劇に登場する合唱（コロス）を意識したものである。

1937年におこなわれた初演は、斬新な音楽やコンセプトゆえに生じた出演者の戸惑いを乗り越えて大成功。それが、この曲を含む三部作『トリオンフィ』の誕生へと繋がる。

ただし当時は、アドルフ・ヒトラー（1889-1945）率いるナチスが全盛を極めていた時代だった。またそれゆえに、あまりにもあけすけな性愛賛歌や反道徳的な歌詞が、ナチスの掲げる「健全なドイツ精神」に抵触する危険性も充分存在した。それでもナチスは結局のところ、この作品に具わった劇的な演奏効果を認め、オルフ自身もナチスにとって理想的な作曲家として祭り上げられてゆく（ただし彼は、けっしてナチス・シンパではなかったのだが）。

そんな切迫した背景が、オルフの『カルミナ・ブラーナ』の背後には脈打っている。運命の支配から逃れられない人間が、にもかかわらずそれに抗うがごとく、焦燥と熱狂と憧れの中に輝く音楽。オーケストラの憑かれたようなリズムに乗せて、冒頭と終結の合唱に現れる歌詞、「だからこそ今／躊躇せず／弦をかき鳴らせ」は、こうした時代状況を端的に物語っているのではないか。

【作曲年代】1934～37年 【初演】1937年6月8日、フランクフルト歌劇場にて、オスカール・ヴェルタリン（演出）、ベルティル・ヴェッツェルスベルガー（音楽監督・指揮）による

【楽器編成】フルート3（2人はピッコロ持ち替え）、オーボエ3（3番はイングリッシュ・ホルン持ち替え）、クラリネット3（2人はE♭クラリネットとバス・クラリネット持ち替え）、ファゴット2、コントラファゴット、ホルン4、トランペット3、トロンボーン3、チューバ、ティンパニ、打楽器（タンブリン、小太鼓、大太鼓、トライアングル、アンティーク・シンバル3、クラッシュ・シンバル、サスペンデッド・シンバル、クロタル、タム・タム、鐘3、チューブラー・ベル、グロッケンシュピール、カスターネット、ラチェット、シロフォン）、チェレスタ、ピアノ2、弦楽5部、ソプラノ独唱、カウンターテナー独唱、バリトン独唱、混声四部合唱、児童合唱

こみやまさやす／ヨーロッパ文化史研究家。横浜国立大学 大学院都市イノベーション研究院 都市科学部教授。著書に『コンスタンツェ・モーツァルト <悪妻>伝説の虚実』（講談社選書メチエ）、『エリザベートと黄昏のハプスブルク帝国 姫君の世界史』（創元社）、『もっときわめる！ 1曲1冊シリーズ 7 リヒャルト・シュトラウス《ばらの騎士》』（音楽之友社）など多数。

The 998th Orchard Hall Subscription Concert

Sun. Mar. 10, 2024, 15:00 at Bunkamura Orchard Hall

The 161st Tokyo Opera City Subscription Concert

Wed. Mar. 13, 2024, 19:00 at Tokyo Opera City Concert Hall

The 999th Suntory Subscription Concert

Fri. Mar. 15, 2024, 19:00 at Suntory Hall

Andrea Battistoni, conductor

Vittoriana De Amicis, soprano* Tadashi Miroku, countertenor*

Michele Patti, baritone*

New National Theatre Chorus (Kyohei Tomihira, chorusmaster)*

Setagaya Junior Chorus, (Midori Kakee, children's chorusmaster)*

Masanobu Yoda, concertmaster

Respighi: Ancient Airs and Dances, Suite No. 2 (ca. 20 min)

I. Laura soave - baletto con gagliarda, saltarello e canario

II. Danza rustica III. Campanae parisienses - Aria IV. Bergamasca

— intermission (ca. 15 min) —

Orff: Carmina Burana* (ca. 65 min)

Fortuna Imperatrix Mundi

O Fortuna

Fortune plango vulnere

PART I Primo Vere

Veris leta facies

Omnia Sol temperat

Ecce gratum

Uf dem Anger

Tanz

Floret silva

Chramer, gip die varwe mir

Reie

Were diu werlt alle min

PART II In Taberna

Estuans interius

Olim lacus colueram

Ego sum abbas

In taberna quando sumus

PART III Cour d'amours

Amor volat undique

Dies, nox et omnia

Stetit puella

Circa mea pectora

Si puer cum puellula

Veni, veni, venias

In trutina mentis dubia

Tempus est iocundum

Dulcissime

Blanziflor et Helena

Ave formosissima

Fortuna Imperatrix Mundi

O Fortuna

Presented by Tokyo Philharmonic Orchestra

Subsidized by the Agency for Cultural Affairs Government of Japan |

Japan Arts Council (Mar. 15)

In Association with **Bunkamura** (Mar. 10)



- ♪ All seats are reserved. Late admittance will be refused during the live performance. If you enter or reenter just before the concert or between movements, we may escort you to a seat different from the one to which you were originally assigned.
- ♪ Exiting during the performance will be tolerated. If you do not feel well, please exit or enter as you need. However, please mind the other listeners so that they will be minimally disturbed.
- ♪ Please refrain from using your cellphone or other electronic devices during performance.
- ♪ Hold applause please. Please cherish the "afterglow" at the end of each piece for a moment before your applause.

Artists Profile



©Takafumi Ueno

Andrea Battistoni, conductor

Chief Conductor of
the Tokyo Philharmonic Orchestra

Born in Verona in 1987, Andrea Battistoni is a rising star with an international reputation as one of the most important conductors of his generation. He was appointed First Guest Conductor at the Teatro Carlo Felice in Genoa

in 2013, and Chief Conductor of the Tokyo Philharmonic Orchestra in 2016.

In Tokyo he has proved to be a sensation with his charisma and sensitive musicality, conducting Tokyo Phil in operas such as *Nabucco*, *Rigoletto*, *Madama Butterfly* (Nikikai), and *Aida* (co-produced grand opera), as well as numerous symphonic works including *Roman Trilogy*, *Pictures at an Exhibition*, and *Rite of Spring*. The concert-style operas he has led - *Turandot* (2015), *Iris* (2016), and *Mefistofele* (2018) have secured his reputation as a leading light with critics and audiences alike. He has been regularly releasing CDs with the Tokyo Phil through Nippon Columbia.

Other noteworthy engagements include: Teatro alla Scala, La Fenice in Venice, Deutsche Oper Berlin, Arena di Verona, Bayerische Staatsoper in Munich, Mariinsky Theater, and world-renowned orchestras such as the Filarmonica della Scala, Accademia di Santa Cecilia, and Israel Philharmonic.

His book, *Non e musica per vecchi* was published by Rizzoli 2012, and by Ongaku-No-Tomo-Sha in Japan in 2017.

In 2021, Andrea Battistoni, performing with Tokyo Phil, won the OPUS KLASSIK Prize 2021 in the 20th/21st Century symphonic category, one of the most prestigious classical awards in Europe, for their international disc, "Dvorak: Symphony No. 9, 'From the New World' & Works of Akira Ifukube."

Website <http://www.andreabattistoni.it/>

Facebook <https://www.facebook.com/Andrea-Battistoni-159320417463885/>

10
Mar13
Mar15
Mar



Vittoriana De Amicis, soprano

Born in L'Aquila, she won several competitions as the VI *Concorso Internazionale Renata Tebaldi* in San Marino and from 2018 to 2020 was trained in the *Centre de Perfeccionament Plácido Domingo* at Palau de les Arts Reina Sofia in Valencia. Among her engagements: *Le nozze di Figaro* in Wien and in Valencia; *Rigoletto* in Teramo; *Un ballo in maschera*, *Il barbiere di Siviglia* and *Carmen* in Tianjin and Harbin; *Die Zauberflöte* (Königin der Nacht) in Jerez de la Frontera, Cordoba and at Arena di Verona. Martyn y Soler's *Il tutore burlato* in Valencia; Teatro San Carlo in *Il Trovatore*; *Dido and Aeneas* at Teatro Massimo in Palermo; *Adriana Lecouvreur* in Parma. On the concert platform she appeared in: a Concert for the 10th anniversary of Luciano Pavarotti's death at Arena di Verona.



Tadashi Miroku, countertenor

Tadashi Miroku graduated from Chiba University and got a master's in pedagogy from the same university. Graduated from the Department of Vocal Music, Tokyo University of the Arts. He has appeared in domestic and international opera concerts, TV and radio programs. Awarded the 2012 (63rd) Art Encouragement Minister of Education, Culture, Sports, Science and Technology Newcomer's Award (music category). Visiting professor at Kunitachi College of Music and lecturer at Nihon University College of Art. Ambassador of Ferrara Renaissance culture to Japan. A member of Nikikai.



Michele Patti, baritone

Born in Genova, he has won several international competitions and he has been then selected by Scuola dell'Opera Italiana of Teatro Comunale in Bologna. Among his recent engagements: *L'elisir d'amore*, *Don Giovanni*, *La traviata* at Teatro Verdi in Busseto in collaboration with Teatro Comunale in Bologna and Teatro Regio di Parma for the opening of the Verdi Festival; *Un giorno di regno* at Festival Verdi in Parma; *Don Pasquale*, *La bohème*, *Die lustige witve* and *Pagliacci* at Teatro Carlo Felice in Genova; the title role in *Guglielmo Tell* in Como; *L'elisir d'amore* at Teatro Petruzzelli in Bari; *La traviata* at Teatro Massimo Bellini in Catania; *Carmen* at Teatro San Carlo in Naples and at Terme di Caracalla; *Die Zauberflöte* at Teatro Filarmonico in Verona.

10
Mar13
Mar15
Mar

New National Theatre Chorus

(Kyohei Tomihira, chorusmaster)



©Takafumi Ueno

New National Theatre, Tokyo, has opened in October 1997 as the only national theatre for the modern performing arts of Opera, Ballet, Contemporary Dance and Play. Meanwhile, New National Theatre Chorus has started its career and plays a central role in many Opera performances all through the seasons. Their ensemble ability and rich voices achieved acclaim from costarred singers, conductors, directors, stage staff s as well as domestic and foreign media.

10
Mar

13
Mar

15
Mar

Setagaya Junior Chorus

(Midori Kakee, children's chorusmaster)



The chorus, founded by Midori Kakee in July 1992, celebrated its 30th anniversary in 2022. With a diverse repertoire, including Japanese songs, domestic and international choral works, and sacred pieces, they've performed in operas, orchestral productions, and CD recordings. They actively contribute to community events in Setagaya Ward. Collaborating with Maestro Battistoni and the Tokyo Philharmonic Orchestra, they impressed audiences in productions like *Otello* (2017) and *Mefistofele* (2018). Recent standout performances include *Super Angels* and *Tosca* at the New National Theatre, as well as *Yu-zuru* and *Pagliacci* at the Tokyo Metropolitan Theatre. Their collaboration with Tetsu Taoshita on *St. Matthew Passion* received acclaim, and their highly praised performance in the opening production of the 2023/2024 season at the New National Theatre, *L'enfant et les sortilèges*, is still fondly remembered.

Program Notes

Text by Robert Markow

Respighi: Ancient Airs and Dances, Suite No. 2

The late twentieth century saw a keen interest in the revival of music of the distant past. But this interest in Early Music was nothing new. Early in the century, Ottorino Respighi was already deeply involved in this very same movement. Throughout much of his career he edited music of the Italian Baroque composers, realized operas such as Monteverdi's *Orfeo*, and wrote a number of works evoking music of several centuries earlier, such as the *Concerto gregoriano* and a *Concerto in the Mixolydian Mode* for piano.

Respighi's three Suites of *Ancient Airs and Dances* were based on lute pieces by French and Italian composers published during the 1890s in modern transcriptions from the old tablatures. The lute was a popular instrument in the courts of sixteenth- and seventeenth-century Europe, and was used in a solo capacity as well as for accompaniment to songs and dances. Suite No. 2 was composed in 1923, and, like the others (composed in 1917 and 1932), consists of four short movements of dance or dance-like music. (Indeed, Respighi's wife Elsa organized the three suites into a ballet in 1937.) Bernardino Molinari conducted the Orchestra della Regia Accademia di Santa Cecilia in the first performance of the Second Suite in Rome on February 17, 1924 – exactly a century ago.

The first piece, “Laura soave,” is a miniature ballet in itself, consisting of three dances (*gagliarda*, *saltarello* and *canario*) by the sixteenth-century composer and dancing master Fabrizio Caroso. The “Danza rustica” is derived from a rambunctious country dance known as the *bransle* in France and *brawl* in England. The composer was the sixteenth-century Frenchman Jean-Baptiste Besard, who was also a lutenist, lawyer, doctor, author, historian, and philosopher. The outer portions of “Campanae parisienses” present an anonymous piece based on the song “Les Cloches de Paris,” while the central section is a love song by Antoine Boesset (not an aria by Marin Mersenne, as indicated in the score). The final number, the “Bergamasca” by Bernardo Gianoncelli (fl. c. 1600), is another rustic dance based on tunes from the region around Bergamo in northern Italy.

10
Mar

13
Mar

15
Mar

OTTORINO RESPIGHI: Born in Bologna, July 9, 1879; died in Rome, April 18, 1936

Work composed: 1923 **World premiere:** February 17, 1924 at Roma, conducted by Bernardino Molinari with Orchestra della Regia Accademia di Santa Cecilia

Instrumentation: piccolo (doubling on flute), 2 flutes, 2 oboes, English horn, 2 clarinets, 2 bassoons, 3 horns, 2 trumpets, 3 trombones, timpani, celesta, harp, harpsichord (four-hands), strings

Orff: Carmina Burana

“In a day when intellectual activity is looked upon with suspicion, something that reaches directly to the automatic nervous system and short-circuits the mind is certain to have an immediate response.” These words, written by a Montreal critic some years ago, go to the heart of Orff’s *Carmina Burana*, one of the dozen or so most popular works of twentieth-century classical music. The appeal of *Carmina Burana*, a secular cantata for solo voices, choruses and orchestra, stems from its uncanny ability to reach deeply into our subconscious, to stimulate instinctive elemental urges, and to celebrate the joy of living with unbridled enthusiasm. Through structural simplicity, primitive harmonic manifestations, folklike melodies, avoidance of counterpoint, athletic freshness and above all, primal rhythmic energy, Orff draws listeners into a “oneness with the universe,” as he liked to put it. “The simpler and more reduced to essentials a statement is, the more immediate and profound its effect,” he wrote.

Carmina Burana was Orff’s first and greatest success. Up to the time he wrote it (1934-37), he had been working in and around his native Munich as an opera coach, conductor, teacher and composer of music in the late romantic tradition. In *Carmina Burana*, Orff adopted what was for him a totally new style, a realization of his newly-acquired goal for “the resuscitation of the musical theater by freeing it from all the exaggerated means of expression at which opera had arrived at the beginning of the twentieth century, and by reducing it to the elementary components from which it was first created.”

The reference to opera may appear puzzling, as *Carmina Burana* is certainly not of this genre. It has a theme, the celebration of earthly pleasures, but no plot, consisting as it does of 25 autonomous short numbers.

10
Mar13
Mar15
Mar

Yet it is eminently a theatrical experience, and nearly cries out for costumes, sets, lighting and physical gesture. Indeed, it has been choreographed on numerous occasions. *Carmina Burana* was first heard at the Frankfurt Opera House on June 8, 1937, conducted by Bertil Wetzelsberger.

Orff's *Carmina Burana* takes its name, and inspiration, from a collection of Medieval poetry discovered in 1803 in the abbey of Benediktbeuern, located in the Bavarian Alps about thirty miles south of Munich. The manuscript was published in Germany in 1847 under the title *Carmina Burana* (Songs of Beuern). This codex contains about 200 secular poems written by the goliards, and as such offers a remarkably vivid and earthy portrait of life in thirteenth-century Europe.

Goliards were itinerant, unfrocked churchmen and students who earned their keep by entertaining their hosts with songs and dances, mostly of an irreverent, witty and even rebellious nature. The texts of their poems generally expressed lusty paeans to love, satires on church rituals, the joys of uninhibited consumption of food and drink, and the like. Even the term “goliard,” according to scholar George Whicher, is derived from the Old French word for “lutton.” Most of the lyrics are in Latin, but a few are in the vernacular Low German as well.

As rhythm plays the most important and elemental role in *Carmina Burana*, Orff has incorporated an exceptionally large array of percussion instruments into his otherwise standard orchestra. Eight players are required to handle a battery consisting of 3 glockenspiels, 2 pianos, celesta, chimes, xylophone, castanets, wood blocks, small bells, 6 timpani, tambourines, 2 side drums, bass drum, triangle and tam-tam. Three vocal soloists (soprano, tenor, baritone) and a large mixed chorus from which additional small solo roles are drawn complete the forces required for this grandly entertaining musical monument to carnality and the joy of living.

The work opens with the musical equivalent of a blow to the gut – a deep, powerful blast of sound from the tuba, timpani and two pianos in their lowest octaves. A two-part introduction (“O fortuna”/“Fortune plango vulnera”) depicts the merciless, cruel work of the Wheel of Fortune. Monolithic, chant-like writing for the chorus perfectly captures the workings of Fate, represented by the turning of the great wheel. Part I (“Springtime”) features the brighter sounds and translucent textures of the orchestra in accordance

10
Mar13
Mar15
Mar

with the optimism and happiness associated with this time of the year.

Part II takes place in a tavern where we find, appropriately enough, only the male voices of the chorus. The second number here is the famous “roasted swan” song sung by a high tenor (“Olim lacus colueram”). This stunning piece of vocal virtuosity is followed by a recitative sung by a blustering, inebriated abbot. Part II concludes with the big drinking song (“In taberna quando sumus”), one of *Carmina Burana*’s most viscerally exciting passages with its catalogue of lusty pleasures sung to a stirring tune.

Part III, “The Court of Love,” takes us to another plane of sensual delights. We leave the rough and tumble world of low tavern life for the refined and delicate realm of amorous flirtations among teenagers. The first few songs suggest a love affair of purity and innocence, but gradually the music takes on earthier tones, while the texts leave less and less to the imagination (“Sweetest boy, ah, I give my all to you!”). A great paean of praise from the full chorus (“Ave formosissima”) nearly brings *Carmina Burana* to its conclusion. But the final word goes to Fortune, whose wheel has made another complete turn, bringing us full circle to where *Carmina Burana* began an hour ago.

CARL ORFF: Born in Munich, July 10, 1895; died in Munich, March 29, 1982

Work composed: 1934-37 **World premiere:** June 8, 1937 at the Municipal Theater in Frankfurt am Main, Oskar Wälterlin (Production) and Bertil Wetzelsberger (Musical direction, Conducting)

Instrumentation: 3 flutes (2 doubling piccolos), 3 oboes (3rd doubling on English horn), 3 clarinets (one doubling on E-flat clarinet, one doubling on bass clarinet), 2 bassoons, contrabassoon, 4 horns, 3 trumpets, 3 trombones, tuba, timpani, percussion (tambourine, snare drum, bass drum, triangle, 3 antique cymbals, crash cymbals, suspended cymbal, crotal, tam-tam, 3 bells, tubular bells, glockenspiel, castanet, ratchet, xylophone), celesta, 2 pianos, strings, solo soprano, solo countertenor, solo baritone, mixed chorus, and children’s chorus

Formerly a horn player in the Montreal Symphony, **Robert Markow** now writes program notes for numerous orchestras and other musical organizations in North America and Asia. He taught at Montreal’s McGill University for many years, has led music tours to several countries, and writes for numerous leading classical music journals.

Season 2024 Subscription Concerts Lineup

We are pleased to inform dear audience the Tokyo Phil's season 2024 subscription lineup! Please join us the ultimate concert experience by subscribing to our concert series. You can select from 3 subscription concerts at Tokyo's top venues, Bunkamura Orchard Hall, Tokyo Opera City Concert Hall, and Suntory Hall.

For more details, please access our website! <https://www.tpo.or.jp/en/>

June

conductor: Myung-Whun Chung, honorary music director,

piano: Keigo Mukawa Ondes Martonot: Takashi Harada

The 1000th Subscription Concert
Sun, Jun 23, 2024, 15:00 start
at Bunkamura Orchard Hall

Mon, Jun 24, 2024, 19:00 start
at Suntory Hall

Wed, Jun 26, 2024, 19:00 start
at Tokyo Opera City Concert Hall

Messiaen:
La Turangalila-symphonie

Single tickets available

July

conductor: Dan Ettinger, conductor laureate **piano: Tomoki Sakata**

Wed, Jul 24, 2024, 19:00 start
at Tokyo Opera City Concert Hall

Sun, Jul 28, 2024, 15:00 start
at Bunkamura Orchard Hall

Mon, Jul 29, 2024, 19:00 start
at Suntory Hall

Mozart:
Piano concerto No. 20
Bruckner:
Symphony No. 4 *Romantic*

Single tickets will be available from April on

Single ticket prices

SS¥15,000 S¥10,000(¥9,000) A¥8,500(¥7,650) B¥7,000(¥6,300)

C¥5,500(¥4,950)

()=Discount prices for TOKYO PHIL FRIENDS

<https://www.tpo.or.jp/en/tickets/friends.php>

Inquiries about tickets.

Tokyo Phil Ticket Service tel: **03-5353-9522**
(weekdays 10:00-18:00, closed on weekends and holidays)

Tokyo Phil WEB Ticket Service <https://www.tpo.or.jp/en/>



September

conductor: Myung-Whun Chung, honorary music director

Macbeth: Sebastian Catana Lady Macbeth: Vittoria Yeo Banquo: Alex Esposito

Macduff: Stefano Secco Malcolm: Keiro Ohara

Lady-in-waiting to Lady Macbeth: Yuka Tajima A Doctor: Takayuki Ito

Servant of Macbeth/Murderer/Herald: Yuichiro Ichikawa

Chorus: New National Theatre Chorus

Sun, Sep 15, 2024, 15:00 start
at Bunkamura Orchard Hall

Tue, Sep 17, 2024, 19:00 start
at Suntory Hall

Thu, Sep 19, 2024, 19:00 start
at Tokyo Opera City Concert Hall

Verdi: opera *Macbeth*

Concert-Style Opera in four acts with Japanese surtitles

Single tickets will be available from April on

October

conductor: Daichi Deguchi violin: Moné Hattori

Thu, Oct 17, 2024, 19:00 start
at Suntory Hall

Fri, Oct 18, 2024, 19:00 start
at Tokyo Opera City Concert Hall

Sun, Oct 20, 2024, 15:00 start
at Bunkamura Orchard Hall

Khachaturian:

Excerpts from *The Valencian widow* suite

Fazil Say:

Violin concerto *1001 Nights in the Harem*

Kodály: Dances of Galánta

Kodály:

Variations on a Hungarian Folksong

The Peacock

Single tickets will be available from April on

November

conductor: Andrea Battistoni, chief conductor

Wed, Nov 13, 2024, 19:00 start
at Tokyo Opera City Concert Hall

Sun, Nov 17, 2024, 15:00 start
at Bunkamura Orchard Hall

Tue, Nov 19, 2024, 19:00 start
at Suntory Hall

Mahler:

Symphony No. 7 *Nachtmusik*

Single tickets will be available from April on

東京フィルだより - 2024年シーズン今後の定期演奏会

6月定期演奏会

第1000回 オーチャード定期演奏会

6月23日(日)15:00 Bunkamuraオーチャードホール

第1001回サントリー定期シリーズ

6月24日(月)19:00 サントリーホール

第162回東京オペラシティ定期シリーズ

6月26日(水)19:00 東京オペラシティ コンサートホール

指揮：チョン・ミョンフン(東京フィル名誉音楽監督)

ピアノ：務川慧悟

オンド・マルトノ：原田 節

メシアン／トゥランガリーラ交響曲

公演時間：約80分(休憩なし)



1回券発売中

7月定期演奏会

第163回東京オペラシティ定期シリーズ

7月24日(水)19:00 東京オペラシティ コンサートホール

第1002回オーチャード定期演奏会

7月28日(日)15:00 Bunkamuraオーチャードホール

第1003回サントリー定期シリーズ

7月29日(月)19:00 サントリーホール

指揮：ダン・エッティンガー(東京フィル桂冠指揮者)

ピアノ：阪田知樹*

モーツァルト／ピアノ協奏曲第20番*

ブルックナー／交響曲第4番『ロマンティック』

(ノヴァーク版)

〈ブルックナー生誕200年〉



1回券4月発売

【料金】1回券 SS¥15,000 S¥10,000 A¥8,500 B¥7,000 C¥5,500

※東京フィルフレンズ(年会費無料・随時入会受付中)入会で、定価の10%割引で購入いただけます(SS席を除く)

お申込み・お問合せは
東京フィルチケット
サービスまで

03-5353-9522 (10時～18時/発売日を除く土日祝休)
<https://www.tpo.or.jp/> (24時間受付・座席選択可)



メシアンの『トゥランガリーラ交響曲』が演奏される。それは今もって、ひとつの事件である。「20世紀を代表する傑作」、「現代音楽の最高峰」——売らんかなの美辞麗句を並べることは簡単だ。けれども、どんなに言葉を尽くしても、この交響曲の実際の体験が与えてくれる圧倒的な力を伝えるには及ばない。

これが交響曲だって？ クラシック・ファンのなかには、眉をひそめるひともあるかもしれない。まず構成からして普通ではない。交響曲たるもの、4つの楽章からなってしまうべきであるのに、『トゥランガリーラ交響曲』は、その2.5倍、10の楽章からなるというではないか。編成については何をか言わんである。弦楽器も管楽器も打楽器も、舞台上に溢れんばかりに配置され、ピアノ協奏曲でもないのにピアノが中央を陣取り、さらにその近くには、なにやらスピーカーが置かれているではないか。実際、まったく交響曲らしくないのである。

“愛”の交響曲、トゥランガリーラ

ちょっと面倒くさい説明をしておく、メシアンの『トゥランガリーラ交響曲』は、ベルリオーズの『幻想交響曲』や劇的交響曲『ロメオとジュリエット』の進化系であって、その意味では、たしかに交響曲としての要件を備えているわけだが、その種の説明は演奏会当日の解説に委ねることにしたい。いまは(メシアンにならって)次のよ

うに言うに留めておこう。偉大な創造精神は、課されたジャンルの枠を超えて、広がりゆくのではないか。

その意味で『トゥランガリーラ交響曲』は、常識に照らせば、訳の分からないものかもしれないが、この「トゥランガリーラ」とは、そもそも、訳の分からないものを呼び出すための呪文の言葉であった。いやいや、とまたしても疑義があがるのも分かる。メシアン自作解説には、これがサンスクリット語であること、また、「トゥランガ」が「時」を、「リーラ」が「遊戯」を意味すると書いてあるの

だから。ゆえに「トゥランガリーラ」とは、総合すれば「時間遊戯」であって、なるほどそれは、この交響曲の体験の一端を言い当ててもいる。ここでは、時間が渦を巻き、前進したかと思うと逆流し、四方に広がる感じがするのだから。しかし、この説明は確実に「後づけ」であった。なんとすれば、メシアンがサンスクリット語の意味に通じるようになったのは、『トゥランガリーラ交響曲』の作曲後、何年も経ってからだったのだから。メシアンは別のところでは、もっと率直にこう語っている。「わたしは、その響きゆえに、この言葉を選んだ」。

つまるところ、「トゥランガリーラ」とは、漫画の吹き出しを埋める「○△☆#・・・」と同じく、言葉にはならない言葉であり、言えないことを言おうとするもがきなのである。もし「トゥランガリーラ」に一番近い言葉を探すなら、それは「愛」だと答える他はない。人間を狂わせる愛、生存本能からすればありえない自己犠牲に人間を走らせる愛、その「訳の分からなさ」こそ「トゥランガリーラ」であり、『トゥランガリーラ交響曲』とは、(そのいくつかの楽章が実際にそう名づけられているように)、その意味での「愛の歌」なのである。

メシアンの精神を具現化するマエストロ、チョン・ミョンフン

今回の演奏会で指揮をするのは、東京フィルの名誉音楽監督であるチョン・ミョンフン。彼は、パリに民衆の劇場「オペラ・バステューユ」が新しく建った1990年、この劇場の管弦楽団トップとして『トゥランガリーラ交響曲』を最初の演奏会で演奏している。(もう15年前になるけれども)マエストロが著者のインタビューに答えて、その理由を次のように語ってくれたことを思い出す。「音楽をやっていくうえで



メシアンの監修のもと録音された『トゥランガリーラ交響曲』(ピアノ：イヴォンヌ・ロリオ、オンド・マルトノ：ジャンヌ・ロリオ、パリ・バスティエ管(1990年10月録音))

私をもっとも大切に思っているのは、たぶん『精神性』という言葉でしか表現できない何ものかなのです。私がバステューユのこけら落としコンサートにメシアン作品を選んだのも、メシアンが新設されたオペラ劇場に息づき、メシアンがこれからはじまる新たな冒険を助けてくれるようにと願ったからなのです。なんと美しい言葉だろうか。「『精神性』という言葉でしか表現できない何ものか」、これこそ「トゥランガリーラ」であり、「愛」であり、メシアンの音楽を貫いて流れている力でなくてなんであろう。

当時、最晩年にあったメシアンが、このときのチョン・ミョンフンの『トゥランガリーラ交響曲』を聴いて、心から感動したというのもよく分かる。そのとき『トゥランガリーラ交響曲』の改訂版の出版を準備中であったメシアンは、この演奏（とその後の録音）を次のように評している。「〔チョン・ミョンフンの指揮で〕実現された『トゥランガリーラ交響曲』の壮麗なヴァージョンは、〔わたしが楽譜に加えた〕これらの修正を考慮にいれ、私の全要求に答えている。これこそ良いテンポ、良いダイナミクス、真の感情そして真の喜びである」。

東京フィル、第1000回定期演奏会

東京フィルの記念すべき1000回目の定期演奏会に、メシアンの『トゥランガリーラ交響曲』が、他ならぬチョン・ミョンフンの指揮で演奏されるのは、決して、偶然ではなからう。メシアンの精神性は、メシアンのトゥランガリーラ、メシアンの愛は、東京フィルの「これからはじまる新しい冒険」を、きっと助けてくれる。『トゥランガリーラ



交響曲』が演奏される、それは今もって、ひとつの事件である。今回、それに立ち会うひとは、まさしく文化史的事件の目撃者となるに違いない。

2007年1月の東京フィル定期『トゥランガリーラ交響曲』より

ふじたしげる／フランス政府給費留学生としてパリ第4大学(ソルボンヌ)に学んだあと、東京藝術大学で博士号を取得。現在、東京音楽大学教授。専門は、近現代のフランス語圏の音楽理論と音楽文化史。メシアン、デュティユー、プーレーズ等の論考多数。訳書としては、ヒル&シメオネ『伝記オリヴィエ・メシアン』(音楽之友社)。

News & Information

6月の定期演奏会について

次回、6月23日のオーチャード定期演奏会で東京フィルは「第1000回」定期演奏会を迎えます。演目は、名誉音楽監督チョン・ミョンフン他による、メシアン作曲『トゥランガリーラ交響曲』。大規模かつ類を見ない楽器編成と音楽構成により、20世紀を代表すると同時に実演に接する機会が大変貴重な作品を取り上げます。

日ごろからご支援くださっている皆様、ご来場くださっているお客様への感謝とともに、皆様のご来場を心からお待ち申し上げます。

※6月定期について詳しくはp.21をご参照ください。

【提携都市公演】

文京シビックホール 響きの森クラシック・シリーズ2024-2025シーズン
4回セット券好評発売中

事業提携都市である東京都文京区の文京シビックホールでの人気シリーズ、「響きの森クラシック・シリーズ」は3月31日まで4回セット券を好評発売中、1回券は4月より順次発売となります。皆様のお越しをお待ちしております。

会場 文京シビックホール 開演 15:00 (全公演とも)

Vol. 80 6月8日(土) 指揮:小林研一郎/ピアノ:小林愛実 ※1回券発売日 4月14日

Vol. 81 10月5日(土) 指揮:小林研一郎/ヴァイオリン:神尾真由子

Vol. 82 2025年1月11日(土) 指揮:鈴木優人/ヴァイオリン:吉本梨乃/チェロ:宮田 大

Vol. 83 3月22日(土) 指揮:アンドレア・パッティストーニ/ヴァイオリン:辻 彩奈

※ Vol.81以降の1回券発売日は順次お知らせします

チケットお問合せ シビックチケット03-5803-1111 (10:00~19:00)

詳しくは <https://www.b-academy.jp/hall/kikidokoro/028.html>

【メンバー出演情報】 J.S.バッハと共に Vol.2 -渡邊辰紀チェロ独奏 -

日時 5月24日(金) 19:30開演 (19:00開場)

会場 かつしかシンフォニーヒルズ アイリスホール

出演 渡邊辰紀(東京フィルチェロ首席奏者)

曲目 J.S.バッハ:無伴奏チェロ組曲 第4番・第5番・第6番

料金(全席指定・税込) 5,000円(未就学児不可)

ご予約

陽向企画チケット窓口 <https://youkouconcert.studio.site/>

※チケットはイープラスでも発売中



渡邊辰紀

©平館平

2024シーズン 今後の定期演奏会

2024シーズンの東京フィル定期演奏会は名誉音楽監督ジョン・ミョンフン、首席指揮者アンドレア・パッティストーニ、特別客演指揮者ミハイル・プレトニョフ、そして桂冠指揮者ダン・エッティンガーと俊英・出口大地を迎え管弦楽の佳品をバランスよくお楽しみいただけるプログラムです。マエストロたちと東京フィルの充実、声楽との融合、協奏曲の躍動を引き続きどうぞお楽しみください。

6月 指揮: **ジョン・ミョンフン** (名誉音楽監督)
ピアノ: **務川慧悟**
オンド・マルトノ: **原田 節**

第1000回 6月23日(日) 15:00
Bunkamuraオーチャードホール
第1001回 6月24日(月) 19:00
サントリーホール
第162回 6月26日(水) 19:00
東京オペラシティ コンサートホール

メシアン／トゥランガリーラ交響曲
公演時間：約80分(休憩なし)



1回券発売中

7月 指揮: **ダン・エッティンガー** (桂冠指揮者)
ピアノ: **阪田知樹***

第163回 7月24日(水) 19:00
東京オペラシティ コンサートホール
第1002回 7月28日(日) 15:00
Bunkamuraオーチャードホール
第1003回 7月29日(月) 19:00
サントリーホール

モーツァルト／ピアノ協奏曲 第20番*
ブルックナー／
交響曲第4番『ロマンティック』
(ノヴァーク版)
〈ブルックナー生誕200年〉

1回券4月発売

9月 指揮: **ジョン・ミョンフン** (名誉音楽監督)
マクベス: **セバスティアン・カターナ**
マクベス夫人: **ヴィットリア・イエオ**
バンクォー: **アレックス・エスポージト**
マクダフ: **ステファノ・セッコ**
マルコム: **小原啓楼**
侍女: **但馬由香**
医者: **伊藤真之**

マクベスの従者、刺客、伝令: **市川宥一郎**
合唱: **新国立劇場合唱団(合唱指揮:富平恭平)**
第1004回 9月15日(日) 15:00
Bunkamuraオーチャードホール
第1005回 9月17日(火) 19:00
サントリーホール
第164回 9月19日(木) 19:00
東京オペラシティ コンサートホール

ヴェルディ／歌劇『マクベス』

オペラ演奏会形式

公演時間：約2時間45分(休憩含む)

1回券4月発売

10
月

指揮: 出口大地

ヴァイオリン: 服部百音*

第1006回 10月17日(木) 19:00
サントリーホール第165回 10月18日(金) 19:00
東京オペラシティ コンサートホール第1007回 10月20日(日) 15:00
Bunkamuraオーチャードホール

ハチャトゥリアン／

『ヴァレンシアの寡婦』組曲より

ファジル・サイ／

ヴァイオリン協奏曲『ハーレムの千一夜』*

コダーイ／ガランタ舞曲

コダーイ／

ハンガリー民謡『孔雀は飛んだ』による変奏曲

1回券4月発売

11
月

指揮: アンドレア・パッチェストーニ

(首席指揮者)

第166回 11月13日(水) 19:00
東京オペラシティ コンサートホール第1008回 11月17日(日) 15:00
Bunkamuraオーチャードホール第1009回 11月19日(火) 19:00
サントリーホール

マーラー／交響曲第7番『夜の歌』

公演時間: 約80分(休憩なし)

1回券4月発売

7月・9月・10月・11月定期演奏会 1回券発売日

最優先(賛助会員様・定期会員様)発売日 4月13日(土)10:00～ ※お電話のみ

優先(東京フィルフレンズ会員様)発売日 4月20日(土)10:00～ ※お電話のみ

WEB優先販売期間 4月20日(土)10:00～5月6日(月・祝)23:59

一般発売 5月7日(火)10:00～

1回券料金(全席指定・税込)

SS席¥15,000 S席¥10,000(¥9,000) A席¥8,500(¥7,650)

B席¥7,000(¥6,300) C席¥5,500(¥4,950) ()=東京フィルフレンズ料金

お問合せ 東京フィルチケットサービス

詳細はこちら

Tel 03-5353-9522 (平日10時～18時・土日祝日休/
発売日の土日祝は10時～16時)

URL www.tpo.or.jp/ (24時間受付・座席選択可)



午後のコンサート。 2024シーズンラインナップ

大人気シリーズ「午後のコンサート。」2024シーズンのラインナップを発表いたしました。オーケストラの名曲と音楽家のお話とおきのお話で楽しむ午後のひととき。2024シーズンも引き続き、東京フィルの午後のコンサートをお楽しみください。

ただ今、4回セット券販売期間中です。シリーズ・席種により売完となっている可能性があります。ご了承ください。

渋谷の午後のコンサート 会場:Bunkamuraオーチャードホール 開演14:00

5月19日(日)

第21回

クラシック・ジュークボックス

指揮とお話:
栗田博文
ピアノ:
壺阪健登

1回券
3月発売



©友澤綾乃 ©川口宗道

7月7日(日)

第22回

夏のパリへ

指揮とピアノとお話:
三ツ橋敬子
語り: 調整中

1回券
5月発売



©Earl Ross

9月8日(日)

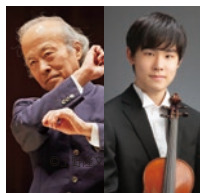
第23回

心躍らせたあの曲との再会

指揮とお話:
尾高忠明
桂冠指揮者

ヴァイオリン:
竹内鴻史郎

1回券
5月発売



©上野隆文

11月4日(月・祝)

第24回

なんでもOKストラ!!

指揮とお話:
円光寺雅彦
ピアノ:
清塚信也

1回券
8月発売



©上野隆文 ©Yuji Takeuchi

平日の午後のコンサート 会場:東京オペラシティ コンサートホール 開演14:00

託児あり

5月15日(水)

第33回

クラシック・ジュークボックス

指揮とお話:
栗田博文
ピアノ:
壺阪健登

1回券
3月発売



©友澤綾乃 ©川口宗道

7月4日(木)

第34回

夏のパリへ

指揮とピアノとお話:
三ツ橋敬子
語り: 調整中

1回券
5月発売



©Earl Ross

9月4日(水)

第35回

心躍らせたあの曲との再会

指揮とお話:
尾高忠明
桂冠指揮者

ヴァイオリン:
竹内鴻史郎

1回券
5月発売



©上野隆文

11月8日(金)

第36回

なんでもOKストラ!!

指揮とお話:
円光寺雅彦
ピアノ:
清塚信也

1回券
8月発売



©上野隆文 ©Yuji Takeuchi

2024シーズン「渋谷」「平日」シリーズは同演目になります。

休日の午後のコンサート 会場:東京オペラシティ コンサートホール 開演14:00

託児あり

4月14日(日)

第100回

響演!
100回記念スペシャル

指揮とお話:
円光寺雅彦

合唱:
新国立劇場合唱団 ほか



©K.Miura



1回券
3月発売

©上野隆文

6月9日(日)

第101回

コパケンの「わが祖国」

指揮とお話:
小林研一郎

ピアノ:
小林愛実



©上野隆文 ©Mekoto Nakagawa

1回券
3月発売

8月12日(月・祝)

第102回

山の思い出

指揮とお話:
横山 奏

ヴァイオリン:
辻 彩奈

ゲスト:
石丸謙二郎



©平銀平 ©Makoto Kaniya

1回券
5月発売

10月14日(月・祝)

第103回

クラシックの車窓からII

指揮とお話:
角田鋼亮

チェロ:
鳥羽咲音



©Hikaru Hoshi ©Julia Wesely

1回券
8月発売

午後のコンサート。1回券 発売スケジュール

	最優先発売 (賛助会員・定期会員)	優先発売 (東京フィルフレンズ・WEB優先)	一般発売
4月・5月・6月公演	3月5日(火) 10:00~	3月9日(土) 10:00~	3月19日(火) 10:00~
7月・8月・9月公演	5月14日(火) 10:00~	5月18日(土) 10:00~	5月28日(火) 10:00~
10月・11月公演	8月20日(火) 10:00~	8月24日(土) 10:00~	9月3日(火) 10:00~

◆渋谷/平日/休日 各シリーズ共通 4回セット券

4回セット券料金	S席	A席	B席	C席
定価	¥20,520	¥16,560	¥11,160	¥8,400
東京フィルフレンズ会員 WEB優先発売期間	¥18,468	¥14,904	¥10,044	¥7,560

※やむを得ない事情により、出演者・曲目などが変更になる場合がございます。※公演中止の場合を除き、お求めいただいたチケットの払戻・変更等はいたしかねます。

※未就学児のご入場はお断りしております。東京オペラシティでの公演では託児サービス(要予約・有料)をご利用いただけます。お申し込みの際は【イベント託児・マザーズ®】0120-788-222 (土日祝日を除く10:00-12:00、13:00-17:00)までご連絡下さい。

お問合せ・お申込み 東京フィルチケットサービス

03-5353-9522 (平日10時~18時/土日祝休 発売日の土日祝のみ10時~16時で営業)

東京フィルWEBチケットサービス <https://www.tpo.or.jp/>



Photo Reports 2024年2月の演奏会より

2024シーズン2月定期演奏会は、名誉音楽監督チョン・ミョンフンが来日。ベートーヴェンの交響曲第6番『田園』、ストラヴィンスキーのバレエ音楽『春の祭典』をお届けしました。二人の作曲家がそれぞれの時代にそれぞれの筆致で自然と神への畏敬を描いた2作品で、マエストロ チョン・ミョンフンのタクトがオーケストラを新たな次元へと誘いました。

2月定期演奏会(2/22、25、27)

撮影=上野隆文

指揮：チョン・ミョンフン(名誉音楽監督)
コンサートマスター：三浦章宏

ベートーヴェン／交響曲第6番『田園』
ストラヴィンスキー／
バレエ音楽『春の祭典』

【オーケストラ・アンコール】ストラヴィンスキー／
バレエ音楽『春の祭典』より第1部「大地の踊り」



『田園』のリハーサルでは繰り返し「美しい音で」と語りかけ、ベートーヴェンが描いた自然への畏敬を探求したマエストロ



ベートーヴェン「交響曲第6番『田園』」より。美しい自然と神に感謝する人間の姿が描かれます



メインプログラムはストラヴィンスキーのバレエ音楽『春の祭典』。マエストロの求心力にオーケストラが応え、擗猛にして妖艶、躍動する『春の祭典』が描出されました



サントリー定期シリーズ、カーテンコールより。次回のマエストロ チョン・ミョンフンの登場は6月。メシアンの大曲『トゥランガリーラ交響曲』をお届けします

クラシック音楽との出会いと私の青春時代

株式会社日税ビジネスサービス 代表取締役会長兼社長
吉田 雅俊



東京フィルゆかりの方々に、クラシック音楽に魅了されたきっかけや音楽生活について綴っていただく本連載。第24回は、法人後援会員としてご支援くださっている株式会社日税ビジネスサービス 代表取締役会長兼社長の吉田雅俊様。ご両親の影響で邦楽に親しまれ、同時にクラシック音楽に出会い惹かれ親しまれた青春時代の思い出を綴っていただきました。



北海道留萌市出身の私は、小学4年生まで海産物製造業を営む家庭で育ちました。家族は父母共に邦楽の愛好家であり、私も35歳から宝生流能楽師に師事し、謡や仕舞い、能の舞台に立ちました。

そんな私ですが幼少期にカソリック系教会の付属幼稚園でクラシック音楽と出会い、特にトロイメライに心惹かれました。中学・高校時代は、音楽の時間やラジオでクラシック音楽に触れる程度でしたが、大学時代には、音楽喫茶や渋谷の名曲喫茶ライオンでのんびりとポピュラーなクラシック曲を聴き、多くの名曲に親しみました。

映画やテレビドラマ等で、クラシック音楽がBGMや挿入曲等に用いられていることに気づき、原曲探しをして改めてその楽曲を^{たの}娯



休日のご家族との時間や文化芸術に触れる時間を大切にされている

左：娘さんのお宅の庭で、お孫さんと／中：京都伏見稲荷にて／右：パリのモネ美術館にて

しむ遊びもしました。挿入曲では、特にキューブリック監督『2001年宇宙の旅』（この映画ではクラシック音楽が多数使用されている）の冒頭でのリヒャルト・シュトラウスの『ツァラトゥストラはかく語りき』や山田洋二監督の映画で流れるヴィヴァルディの『四季』～「秋」は印象的でした。

東京フィルハーモニー交響楽団との出会いは、会社の役員の妹さんが楽団員であったことから始まり、賛助会員を経て法人後援会員として現在に至ります。私は毎回受け取るチケットを社員に抽選で提供し、福利厚生の一環としています。私自身はあまりコンサートに行く機会がありませんが、この活動を通じて社員に文化的体験を提供できることに感謝しています。

吉田雅俊（よしだ・まさとし）／1947年北海道生まれ。東京都立大学 工学部機械工学科卒業。
株式会社日税ホールディングス 代表取締役会長、
株式会社日税ビジネスサービス、株式会社日税不動産情報センター、株式会社共栄会保険代行者、日税グループ各社、最高経営責任者（CEO）。
公益財団法人経済同友会会員、新宿新都心ロータリークラブ元会長、国際ロータリー第2580地区2017～2018年度ガバナー、東大寺唯心会常務理事（東京支部長）、一般社団法人東京都立大学同窓会会長。

日差しに春の訪れを感じる頃となりました。

皆様におかれましてはお健やかに過ごしのことと存じます。

今月は首席指揮者パティストーニの指揮のもと、

合唱付きの名曲をお届けいたします。

引き続き、当楽団を何卒よろしくお願ひ申し上げます。



東京フィルハーモニー交響楽団 理事長 三木谷 浩史

賛助会

東京フィルハーモニー交響楽団の活動は、皆様のご寄附により支えていただいております。ここに法人ならびに個人賛助会員(パートナー会員)の皆様のご芳名を掲げ、改めて御礼申し上げます。

オフィシャル・サプライヤー (敬称略)

ソニーグループ株式会社	代表執行役 社長 COO 兼 CFO	十時 裕樹
楽天グループ株式会社	代表取締役会長兼社長	三木谷 浩史
株式会社マルハン	代表取締役 会長	韓 昌祐
株式会社ロッテ	代表取締役社長執行役員	牛腸 栄一
株式会社ゆうちょ銀行	取締役兼代表執行役社長	池田 憲人

法人会員

賛助会員 (五十首順・敬称略)

(株)III 代表取締役社長 井手 博	(株)インターテキスト 代表取締役 海野 裕	(公財)オリックス宮内財団 代表理事 宮内 義彦
(株)アイエムエス 取締役会長 前野 武史	ANAホールディングス(株) 代表取締役社長 芝田 浩二	カシオ計算機(株) 代表取締役社長CEO兼CHRO 増田 裕一
(医)相澤内科医院 理事長 相澤 研一	(株)NHKエンタープライズ 代表取締役社長 有吉 伸人	キヤノン(株) 代表取締役会長兼社長 CEO 御手洗 富士夫
アイ・システム(株) 代表取締役会長 松崎 務	大塚化学(株) 特別相談役 大塚 雄二郎	(株)グリーンハウス 代表取締役社長 田沼 千秋
(株)アシックス 取締役会長 尾山 基	(株)オーディオテクニカ 代表取締役社長 松下 和雄	サントリーホールディングス(株) 代表取締役社長 新浪 剛史

信金中央金庫
理事長 柴田 弘之

(株)J.Y.PLANNING
代表取締役 暹澤 准

(株)滋慶
代表取締役社長 田仲 豊徳

(株)ジーヴァエナジー
代表取締役社長 金田 直己

菅波楽器(株)
代表取締役社長 菅波 康郎

相互物産(株)
代表取締役社長 小澤 真也

ソニーグループ(株)
代表執行役 社長 COO 兼 CFO 十時 裕樹

ソニー生命保険(株)
代表取締役社長 高橋 薫

(株)ソニー・ミュージックエンタテインメント
代表取締役社長CEO 村松 俊亮

(株)大丸松坂屋百貨店
代表取締役社長 宗森 耕二

都築学園グループ
総長 都築 仁子

東急(株)
取締役社長 堀江 正博

東京オペラシティビル(株)
代表取締役社長 長島 誠

東レ(株)
代表取締役社長 大矢 光雄

TOPPANエッジ(株)
代表取締役社長 添田 秀樹

DOWAホールディングス(株)
代表取締役社長 関口 明

(株)ニチケアパレス
代表取締役社長 秋山 幸男

(株)ニフコ
取締役会長 山本 利行

日本ライフライン(株)
代表取締役社長 鈴木 啓介

(株)パラダイスインターナショナル
代表取締役 新井 秀之

富士電機(株)
代表取締役会長 CEO 北澤 通宏

(株)不二家
代表取締役社長 河村 宣行

(株)三井住友銀行
頭取CEO 福留 朗裕

三菱地所(株)
執行役社長 中島 篤

三菱倉庫(株)
相談役 宮崎 毅

(株)三菱UFJ銀行
特別顧問 小山田 隆

ミライラボバイオサイエンス(株)
代表取締役 田中 めぐみ

(株)明治
代表取締役社長 松田 克也

森ビル(株)
代表取締役社長 辻 慎吾

ヤマトホールディングス(株)
代表取締役社長 長尾 裕

(株)山野楽器
代表取締役社長 山野 政彦

ユニオンツール(株)
代表取締役会長 片山 貴雄

(医)ユベンシア
理事長 今西 宏明

楽天グループ(株)
代表取締役会長兼社長 三木谷 浩史

(株)リソー教育
取締役会長 岩佐 実次

後援会員

(株)アグレックス
代表取締役社長 山本 修司

(医)エレル たにぐちファミリークリニック
理事長 谷口 聡

欧文印刷(株)
代表取締役社長 和田 美佐雄

(有)オルテンシア
代表取締役 雨宮 睦美

(医)カリタス菊山医院
理事長 加藤 徹

(医)康明会
理事長 遠藤 正樹

(医)だて内科クリニック
理事長 伊達 太郎

(宗)東京大仏・乗蓮寺
代表役員 若林 隆壽

(一財)凸版印刷三幸会
代表理事 金子 真吾

(株)日税ビジネスサービス
代表取締役会長兼社長 吉田 雅俊

(株)ネスト
代表取締役 太田 潤

富士通(株)
代表取締役社長 時田 隆仁

本田技研工業(株)
取締役 代表執行役社長 三部 敏宏

三菱電機(株)
執行役社長 漆間 啓

ご支援の御礼とお願い

昨今の社会情勢において、皆様からたくさんの励ましのお言葉とともに、東京フィルに温かいご支援をいただいておりますこと、心より御礼申し上げます。

東京フィルハーモニー交響楽団は、1911年(明治44年)に創設され、この西洋発祥の音楽文化を日本の近代化の中でいち早く受容し、様々な試行錯誤を繰り返しつつ、音楽を社会に届けるという使命を貫いて参りました。

東京フィルは世界でも数少ない自主運営の楽団です。

今後さらさら安定的・発展的な財政基盤を構築し、いつその発展をはかるために、皆様のご寄附が力となります。

皆様におかれましては、あらためて当団を取り巻く状況についてご理解を賜りますとともに、一層のご支援・ご助力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。東京フィルが取り組む、実り豊かな未来を創る活動へのご支援をお願い申し上げます。

弊団へのご寄附をいただけます際には、こちらの口座のいずれかにお振込みいただきましたら幸いです。個人として1万円以上、法人として30万円以上のご寄附をご検討いただける際は、賛助会(次ページ)も併せてご覧ください。

金融機関名	ゆうちょ銀行(郵便振替)	三井住友銀行・東京公務部(096)
口座番号	00120-2-30370	普通預金 3003239
口座名義	公益財団法人 東京フィルハーモニー交響楽団	

※寄附金額は自由に設定いただけます。

※振込手数料、通信費は恐れ入りますがご負担くださいますようお願い申し上げます。

※領収証書が必要な方は、別途配布しております「寄附申込書」に必要事項を記入し、下記送付先へご送付ください。

寄附申込書の書式は下記ウェブサイトまたは問合せ先へご照会ください。



寄附申込書・賛助会入会申込書はこちらからも取得いただけます。
<https://www.tpo.or.jp/support>

ご支援・賛助会に関するお問合せ／寄附申込書 送付先

公益財団法人 東京フィルハーモニー交響楽団・広報渉外部 寄附担当
〒163-1408 東京都新宿区西新宿3-20-2 東京オペラシティタワー8階
Fax: 03-5353-9523 Eメール: partner@tpo.or.jp
Tel: 03-5353-9521(土日祝日を除く10時~18時)

東京フィルの賛助会(応援団)に入りませんか？

2024年に東京フィルハーモニー交響楽団は創立113年を迎えます。

これまでの歩みは、東京フィルとその音楽を愛する皆様の日頃からの大きなご支援とご助力なしには実現しえないものでした。心より御礼申し上げます。

東京フィルは1月をシーズンのスタートに据え、年間を通じて皆様の暮らしに音楽をお届けしてまいります。国際的に活躍する音楽家や将来を嘱望される若い演奏家を招いての定期演奏会や「午後のコンサート」シリーズ、「第九」「ニューイヤーコンサート」などの特別演奏会や提携都市公演、学校や公共施設での音楽活動を通じ、今後も社会に広くオーケストラの価値を認知いただけるよう活動を続けてまいります。この活動を通じて、日本の芸術文化の発展に寄与し、今後ますます多様化・複雑化するグローバル社会において不可欠な心の豊かさ・寛容さを育み、次世代へと続く文化交流の懸け橋となるよう、より一層努めてまいります。

ぜひとも皆様方からの継続的なご支援を賜りますよう、謹んでお願い申し上げます。

東京フィルハーモニー交響楽団



さまざまな形で青少年に演奏を届ける活動を続けています

賛助会(法人／パートナー(個人))会員の種別

オフィシャル・サプライヤー ※	
法人会員	年会費10
賛助会員	50万円
後援会員	30万円
パートナー会員	
ワンハンドレッドクラブ	100万円
フィルハーモニー	50万円
シンフォニー	30万円
コンチェルト	10万円
ラプソディ	5万円
インテルメッツォ	3万円
プレリユード	1万円

※オフィシャル・サプライヤーの詳細はお問い合わせください。東京フィルハーモニー交響楽団は内閣府により「公益財団法人」に認定されており、ご寄附の金額に応じて税法上の優遇措置を受けることができます。その他特典、お申込みや資料請求など、詳しくは東京フィル広報渉外部担当へお問合せください。

寄附をご検討くださいます際には、主催公演会場「ご支援カウンター」またはウェブサイト、東京フィル担当(partner@tpo.or.jp)までお尋ねください。ご入会後は、1年ごとに継続のご案内をお送りいたします。

【賛助会に関するお問合せ・お申込み】

東京フィルハーモニー交響楽団 広報渉外部 (担当: 星野^{かのまた} 鹿丈)

Tel: 03-5353-9521 (平日10時~18時) Eメール: partner@tpo.or.jp

活動のご報告

皆様のご寄附は東京フィルの様々な活動を支えています。



フランチャイズ・ホール、事業提携都市との連携

東京フィルは、フランチャイズ・ホールであるBunkamuraオーチャードホール等での定期演奏会の他、東京都文京区、千葉県千葉市、長野県軽井沢町、新潟県長岡市の各地域と事業提携を結び、定期演奏会、親子のためのコンサートや中高生などへの楽器ワークショップ等、地域の皆様との交流を通じ音楽の魅力をお届けしています。



文化庁「舞台芸術等総合支援事業(学校巡回公演事業)」

文化庁が主催する本事業として、日本全国の小中学校や特別支援学校を訪問し、一流の文化芸術団体による巡回公演を行っています。東京フィルは国内オーケストラでは唯一、文化庁から8年間の長期採択を受け(2014～2021年度)、東日本大震災地域を含む北海道・東北地区の小中学校115校、のべ46,279名の児童・生徒、地域の皆様と交流を行い、2019年度からは、これに加え、関東・東海・中国地区の小中学校61校のべ20,389名の児童・生徒に音楽をお届けしました。2022(令和4)年度の「文化芸術による子供育成推進事業」では、東京フィルは中国地区の担当として新たに長期採択(2022～2024年度)を受け、2023年度も6月から1月にかけて、8校の小中学校を訪問し、ワークショップとオーケストラ公演を開催いたしました。



小学校体育館でのオーケストラ本公演



留学生の演奏会ご招待・・・留学生招待シート

東京フィルでは国際交流事業の一環として、海外からの留学生や研修員の方々を定期演奏会へご招待する「留学生招待シート」を設けており、皆様からご寄附いただいたチケットも有効に活用させていただきます。詳しくは東京フィルチケットサービス(03-5353-9522)までお問合せください。



定期演奏会に來場のJICA東京研修生の皆様とチヨン・ミョンフン(2019年7月東京オペラシティ定期)

©上野隆文



“とどけ心に”特別招待シート

東京フィルでは2011年の東日本大震災をきっかけに、自然災害などやむを得ない事情により国や地域を問わず故郷から避難されているかたがたを当団の主催公演にご招待する取り組みを行っています。招待をご希望の方は、東京フィルチケットサービス(03-5353-9522)まで、支援団体として東京フィルの演奏会を活用したいという場合は、東京フィル事務局(03-5353-9521)広報渉外部担当までご相談ください。

ご来場いただけなくなった定期演奏会チケットのご寄附について

東京フィルでは、ご購入いただきながらご来場いただけなくなった定期演奏会のチケットをご寄附いただき「留学生招待シート」「とどけ心に”特別招待シート”」として活用させていただいております。お手元にご来場いただけなかった公演チケットがございましたら、ぜひ東京フィルへご寄附ください。大切に使用させていただきます。



お問合せ・お申込み
東京フィルチケットサービス
電話:03-5353-9522
(10時~18時/土日祝休)

2月の演奏会のチケットのご寄附をいただきました。心より御礼申し上げます。

高村 政之、三島 絵里(他匿名希望1名)

(五十音順・敬称略)



特別公演、公演協賛、広告のご案内

東京フィルハーモニー交響楽団は、様々な音楽活動を通して、企業様の大切な節目である周年記念事業や式典、福利厚生イベント等でご活用いただけるオンリーワンの特別企画を展開しております。

- 周年事業や記念イベントとして大切なお客様を招待したコンサートを開きたい
- 商品や新事業のプロモーションとして何か施策を考えたい
- 式典や学会などでの演奏を企画したい
- 東京フィルの公演プログラムに広告を掲載したい
- 新製品、サンプルを会場で販売・配布したい

どうぞお気軽にご用命ください。



日中国交正常化45周年記念上海公演後のレセプションにて

【広告・協賛のお問合せ】 東京フィルハーモニー交響楽団 広報渉外部

Tel: 03-5353-9521(平日10時~18時) Eメール: partner@tpo.or.jp

東京フィルハーモニー交響楽団 1911年創立 楽団員

Tokyo Philharmonic Orchestra Since 1911 / Musicians

名誉音楽監督
Honorary Music Director

チョン・ミョンフン
Myung-Whun Chung

首席指揮者
Chief Conductor

アンドレア・バッティストーニ
Andrea Battistoni

桂冠指揮者
Conductor Laureate

尾高 忠明
Tadaaki Otaka

大野 和士
Kazushi Ono

ダン・エッティンガー
Dan Ettinger

特別客演指揮者
Special Guest Conductor

ミハイル・プレトニョフ
Mikhail Pletnev

アシソエイト・コンダクター
Associate Conductor

チョン・ミン
Min Chung

永久名誉指揮者
Permanent Honorary Conductor

山田 一雄
Kazuo Yamada

永久楽友・名誉指揮者
Permanent Member and
Honorary Conductor

大賀 典雄
Norio Ohga

コンサートマスター
Concertmasters

近藤 薫
Kaoru Kondo

三浦 章宏
Akihiro Miura

依田 真宜
Masanobu Yoda

第1ヴァイオリン
First Violins

小池 彩織☆
Saori Koike

榎原 菜若☆
Namo Sakakibara

坪井 夏美☆
Natsumi Tsuboi

平塚 佳子☆
Yoshiko Hiratsuka

浅見 善之
Yoshiyuki Asami

浦田 絵里
Eri Urata

景澤 恵子
Keiko Kagesawa

加藤 光
Hikaru Kato

巖築 朋美
Tomomi Ganchiku

坂口 正明
Masaaki Sakaguchi

鈴木 左久
Saku Suzuki

高田 あきの
Akino Takada

田中 秀子
Hideko Tanaka

栃本 三津子
Mitsuko Tochimoto

中澤 美紀
Miki Nakazawa

中丸 洋子
Hiroko Nakamaru

廣澤 育美
Ikumi Hirotsawa

弘田 聡子
Satoko Hirota

藤瀬 実沙子
Misako Fujise

松田 朋子
Tomoko Matsuda

第2ヴァイオリン
Second Violins

藤村 政芳◎
Masayoshi Fujimura

水島 路◎
Michi Mizutori

宮川 正雪◎
Masayuki Miyakawa

小島 愛子☆
Aiko Kojima

高瀬 真由子☆
Mayuko Takase

石原 千草
Chigusa Ishihara

出原 麻智子
Machiko Idehara

太田 慶
Kei Ota

葛西 理恵
Rie Kasai

佐藤 実江子
Mieko Sato

二宮 祐子
Yuko Ninomiya

本堂 祐香
Yuuika Hondo

山代 裕子
Yuko Yamashiro

吉田 智子
Tomoko Yoshida

吉永 安希子
Akiko Yoshinaga

若井 須和子
Suwako Wakai

渡邊 みな子
Minako Watanabe

ヴィオラ
Violas

須田 祥子◎
Sachiko Suda

須藤 三千代◎
Michiyo Suto

高平 純◎
Jun Takahira

加藤 大輔◎
Daisuke Kato

今川 結☆
Yui Imagawa

杉浦 文☆
Aya Sugiura

伊藤 千絵
Chie Ito

岡保 文子
Ayako Okayasu

曾和 万里子
Mariko Sowa

高橋 映子
Eiko Takahashi

手塚 貴子
Takako Tezuka

中嶋 圭輔
Keisuke Nakajima

蛭海 たづ子
Tazuko Hirumi

古野 敦子
Atsuko Furuno

村上 直子
Naoko Murakami

森田 正治
Masaharu Morita

チェロ Cellos	コントラバス Contrabasses	オーボエ Oboes	ホルン Horns	トロンボーン Trombones	ハープ Harps
金木 博幸◎ Hiroyuki Kanaki	片岡 夢児◎ Yumeji Kataoka	荒川 文吉◎ Bunkichi Arakawa	齋藤 雄介◎ Yusuke Saito	中西 和泉◎ Izumi Nakanishi	梶 彩乃 Ayano Kai
服部 誠◎ Makoto Hattori	黒木 岩寿◎ Iwahisa Kuroki	加瀬 孝宏◎ Takahiro Kase	高橋 臣宜◎ Takanori Takahashi	辻 姫子◎ Himeko Tsuji	田島 緑 Midori Tajima
渡邊 辰紀◎ Tatsuki Watanabe	遠藤 柁一郎 Shuichiro Endo	佐竹 正史◎ Masashi Satake	磯部 保彦 Yasuhiko Isobe	石川 浩 Hiroshi Ishikawa	ライブラリアン Librarian
黒川 実咲☆ Misaki Kurokawa	小笠原 茅乃 Kayano Ogasawara	岡村 彩香 Ayaka Okamura	大東 周 Shu Ohigashi	五箇 正明 Masaaki Goka	武田 基樹 Motoki Takeda
高麗 正史☆ Masashi Korai	岡本 義輝 Yoshiteru Okamoto	杉本 真木 Maki Sugimoto	木村 俊介 Shunsuke Kimura	藤田 恵輔 Keisuke Fujita	ステージマネージャー Stage Managers
石川 剛 Go Ishikawa	小栗 亮太 Ryota Oguri	若林 沙弥香 Sayaka Wakabayashi	田場 英子 Eiko Taba	山内 正博 Masahiro Yamauchi	
大内 麻央 Mao Ouchi	熊谷 麻弥 Maya Kumagai	クラリネット Clarinets	塚田 聡 Satoshi Tsukada	チューバ Tuba	稲岡 宏司 Hiroshi Inaoka
太田 徹 Tetsu Ota	菅原 政彦 Masahiko Sugawara	アレッサンドロ・ ベヴェラリ◎ Alessandro Beverari	豊田 万紀 Maki Toyoda	大塚 哲也 Tetsuya Otsuka	大田 淳志 Atsushi Ota
菊池 武英 Takehide Kikuchi	田邊 朋美 Tomomi Tanabe	万行 千秋◎ Chiaki Mangyo	山内 研自 Kenji Yamanouchi	萩野 晋 Shin Ogino	古谷 寛 Hiroshi Furuya
佐々木 良伸 Yoshinobu Sasaki	中村 元優 Motomasa Nakamura	黒尾 文恵 Fumie Kuroo	トランペット Trumpets		
長谷川 陽子 Yoko Hasegawa		鳥潟 さくら Sakura Torigata	川田 修一◎ Shuichi Kawata	ティンパニ& パーカッション Timpani & Percussion	
渡邊 文月 Fuzuki Watanabe	フルート Flutes	林 直樹 Naoki Hayashi	野田 亮◎ Ryo Noda	岡部 亮登◎ Ryoto Okabe	
	神田 勇哉◎ Yuya Kanda	ファゴット Bassoons	古田 俊博◎ Toshihiro Furuta	塩田 拓郎◎ Takuro Shiota	
	斉藤 和志◎ Kazushi Saito	河野 星◎ Akari Kono	杉山 眞彦 Masahiko Sugiyama	秋田 孝訓 Takanori Akita	
	吉岡 アカリ◎ Akari Yoshioka	チェ・ヨンジン◎ Young-Jin Choe		木村 達志 Tatsushi Kimura	
	さかはし 矢波 Yanami Sakahashi	廣幡 敦子◎ Atsuko Hirohata		鷹羽 香緒里 Kaori Takaba	
		井村 裕美 Hiromi Imura		中村 勇輝 Yuki Nakamura	
		桔川 由美 Yumi Kikkawa		縄田 喜久子 Kikuko Nawata	
		森 純一 Junichi Mori		船迫 優子 Yuko Funasako	
				古谷 はるみ Harumi Furuya	

◎首席奏者
Principal○副首席奏者
Assistant Principal☆フォアシュピラー
Vorspieler

東京フィルハーモニー交響楽団

1911年創立。日本で最も長い歴史をもつオーケストラ。メンバー約160名、シンフォニーオーケストラと劇場オーケストラの両機能を併せもつ。名誉音楽監督にチョン・ミョンフン、首席指揮者アンドレア・バッティストーニ、特別客演指揮者にミハイル・プレトニョフを擁する。Bunkamuraオーチャードホール、東京オペラシティ コンサートホール、サントリーホールでの定期演奏会や「渋谷／平日／休日の午後のコンサート」等の自主公演、新国立劇場等でのオペラ・バレエ演奏、『名曲アルバム』『NHKニューイヤーオペラコンサート』『題名のない音楽会』『東急ジルベスターコンサート』『NHK紅白歌合戦』『クラシックTV』『いないいないばあ!』などの放送演奏により、全国の音楽ファンに親しまれる存在として高水準の演奏活動と様々な教育的活動を展開している。海外公演も積極的に行い、国内外から高い評価と注目を集めている。2020～21年のコロナ禍における取り組みはMBS『情熱大陸』、NHK BS1『BS1スペシャル 必ずよみがえる～魂のオーケストラ 1年半の闘い～』などのドキュメンタリー番組で取り上げられた。

1989年よりBunkamuraオーチャードホールとフランチャイズ契約を結んでいる。東京都文京区、千葉県千葉市、長野県軽井沢町、新潟県長岡市と事業提携を結び、各地域との教育的、創造的な文化交流を行っている。

Tokyo Philharmonic Orchestra

In 2023, the Tokyo Philharmonic Orchestra celebrates its 112th anniversary as Japan's first symphony orchestra. With about 160 musicians, Tokyo Phil regularly performs both symphonies and operas. Tokyo Phil is proud to have appointed Maestro Myung-Whun Chung, who has been conducting Tokyo Phil since 2001, as Honorary Music Director, Maestro Andrea Battistoni as Chief Conductor and Maestro Mikhail Pletnev as Special Guest Conductor.

Tokyo Phil has established its world-class reputation through its subscription concert series, regular opera and ballet assignments at the New National Theatre, and a full, ever in-demand musical agenda around Japan and the world, including broadcasting with NHK Broadcasting Corporation, various educational programs, and tours abroad.

Tokyo Phil has partnerships with Bunkamura Orchard Hall, the Bunkyo Ward in Tokyo, Chiba City, Karuizawa Cho in Nagano and Nagaoka City in Niigata.

Official Website / SNS <https://www.tpo.or.jp/>    



©上野隆文

東京フィルWEB



役員等・事務局・団友

役員等(理事・監事および評議員)

理事長	理事	監事	評議員
三木谷 浩史	浮舟 邦彦	岩崎 守康	伊東 信一郎
	大賀 昭雄	山野 政彦	海老澤 敏
副理事長	大塚 雄二郎		佐治 信忠
黒柳 徹子	小山田 隆		鈴木 啓介
専務理事	篠澤 恭助		瀬谷 博道
石丸 恭一	田沼 千秋		日枝 久
	寺田 琢		
常務理事	遠山 敦子		
工藤 真実	野本 弘文		
	韓 昌祐		
	平井 康文		
	宮内 義彦		

事務局

楽団長	公演事業部	ステージマネージャー	ライブラリアン	広報渉外部	総務 経理
石丸 恭一	市川 悠一	稲岡 宏司	武田 基樹	伊藤 唯	川原 明夫
	岩崎 井織	大田 淳志		鹿又 紀乃	鈴木 美絵
事務局長	大久保 里香	古谷 寛		千木 加寿子	
工藤 真実	大谷 絵梨奈			二木 憲史	
	佐藤 若菜			星野 友子	
	村尾 真希子			松井 ひさえ	
				安田 ひとみ	

団友

安藤 栄作	大和田 皓	河野 啓子	清水 真佑子	長池 陽次郎	古野 淳
池田 敏美	岡部 純	近藤 勉	瀬尾 勝保	長岡 慎	細川 克己
糸井 正博	小樽 敦子	今野 芳雄	高岩 紀子	長倉 穰司	細洞 寛
今井 彰	小山 智子	齊藤 匠	高野 和彦	新田 清枝	本田 詩子
井料 和彦	甲斐沢 俊昭	坂口 和子	高村 千代子	新田 伸雄	松澤 久美子
岩崎 龍彦	加藤 明広	嵯峨 正雄	竹林 良	二宮 純	湊 貞男
植木 佳奈	加藤 博文	嵯峨 美穂子	竹林 陽子	野仲 啓之助	宮原 真弓
上野 眞行	金崎 真由美	桜木 弘子	田中 千枝	畑中 和子	山屋 房子
生方 正好	川人 洋二	笹 翠	田村 武雄	玻名城 昌子	吉田 啓義
大兼久 輝宴	木村 友博	佐々木 等	津田 好美	福村 忠雄	米倉 浩喜
大澤 昌生	黒川 正三	佐野 恭一	戸坂 恭毅	藤原 勲	脇屋 俊介

〈発行日〉 2024(令和6)年3月10日 〈発行人〉石丸 恭一

〈発行所〉 東京フィルハーモニー交響楽団

〒163-1408 東京都新宿区西新宿3-20-2 東京オペラシティタワー8F Tel. 03-5353-9521 Fax 03-5353-9523

フランチャイズ・ホール: Bunkamuraオーチャードホール 提携: 千葉県 文京区 軽井沢町 長岡市

〈デザイン〉 米田デザイン事務所 〈表紙画〉ハラダチエ 〈編集協力〉ひとま舎

〈印刷〉 欧文印刷株式会社

©Tokyo Philharmonic Orchestra *無断転載を禁ず(非売品)

～コンサートをお楽しみいただくために～

♪ チケットの座席番号をチェック！

・本日のコンサートは全席指定です。チケットに記載されたお席にご着席ください。

♪ 開演時間をチェック！

・時間に余裕をもってご着席ください。演奏中のご入場は、固くお断りいたします。
楽章間の入場も楽曲の進行により制限させていただきます。
・曲間・楽章間での退場につきましては、体調に不安がある場合など、無理せずご判断ください。その際、周りのお客様の鑑賞の妨げとならぬようご配慮ください。

♪ 開演前に、お手元のお荷物や電子機器をチェック！

・許可のない録音・録画は固くお断りいたします。
・演奏中に、時計やスマートフォン、その他電子機器のアラーム音やディスプレイの光が漏れないよう、電源をお切りいただくか、マナーモードの設定をいま一度ご確認ください。
・動いたときに音の出る衣類やバッグ等は足元に。
・のど飴類は開封時に音が出ないものをご準備ください。咳が出そうな日はあらかじめお手元やお口の中に。

♪ 演奏中に気を付けたいことも同時にご確認ください！

・演奏は最後の余韻まで余さずお楽しみください。早すぎる拍手や声援は他のお客様の鑑賞の妨げとなる場合がございます。

マナーを守ってコンサートをお楽しみください♪



こころの時間

Tokyo Philharmonic Orchestra Season 2024

